

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立広島北特別支援学校
-----	---------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校は知的障害を対象とした特別支援学校である。

食形態は普通食以外に、粗刻み食（1名）、小刻み食（2名）、ペースト食（3名）を行っている。児童生徒の状況により、担任が言語聴覚士等と連携し、食形態についての助言や喫食時の姿勢を良くする道具等について助言をいただいている。給食での食物アレルギー対応者は7名である。こだわりの強い児童生徒も多く、混ぜご飯は具とご飯を別配缶にしたり、麦ごはんの目を少なくしたりしている。日々の給食指導は担任がいろいろな食材を少しでもたくさん食べられるように、また、食事のマナーや衛生等について指導している。

特別支援学校では特に、保護者が安心して児童生徒を送り出せる安心安全な給食を提供することを土台にすることが大事だと感じる。そうした給食を土台に全体で取り組む食育を行いたいと取り組んでいる。全体での食育は、保健安全部を中心に取り組んでいる。同じ取組をして3年目になるが、回を重ねることで、取組の場面で、児童生徒が楽しみながら自分で考え活動することが増えたと感じる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

保健安全部での取組：「好き嫌いせずバランスよく食べよう」と「完食率を上げる」をテーマに健康教室とリクエスト献立に取り組んだ。リクエスト献立を行った後、担任へ次の二つのアンケートを行った。「生徒は楽しく取り組んだか。」「喫食量は他の日と比べてどうだったか。」、この項目の肯定的評価が8割以上になることを目指した。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 好き嫌いせず食べよう

小学部1年生から高等部2年生まで健康教室を行った。

① 小学部：イラスト掲示（3色の食材）や実演により食べ物を好き嫌いせずバランスよく食べることが大事であることを説明した。その後、ふちを赤、黄、緑に塗ったメニューカードを使い、自分でカードを1枚ずつとり、献立を完成させた。



② 中学部：赤、黄、緑の食品について、また、好き嫌いせずバランスよく食べることが大事であることを説明した後、その日の献立の食材を赤、黄、緑の食材に分けていった。主体的に前に出る生徒だけでなく、全員が前に出て貼るよう担任等が支援を行った。すべての食材が貼れた後、給食はバランスの良い献立だということを知らせた。



- ③ 高等部1・2年生：赤，黄，緑の食品の説明，バランスよく食べることが大事という説明後，食品のクイズを行っている。
- ④ 高等部3年生：家庭科「食生活について知ろう」でバランスのとれた食生活として，まず卒業後の食生活を考え，ジュースの糖分やカップラーメンなどの塩分やお菓子のエネルギーなどについて実物を1人1個持ち学習し，一度にたくさん食べるとバランスのとれた食事にならないということを説明した。その後6つの基礎食品群を使用して，バランスのとれた食事についての説明をした。

【取組2】(テーマ) リクエスト献立

- ① 小学部：健康教室終了後，事前に担任が選んだメニューの中から，各学年で好きな給食のメニューを1つ考えた。小学部の中で同じメニューにならないよう，栄養教諭と連携して行った。
- ② 中学部：健康教室の中で，バランスの良い献立を学習した後，給食の献立を考えた。主食を黄色の枠に入れ，主菜は赤の枠を用意，副菜は緑の枠を用意した。主菜も副菜も，保健安全部や担任と栄養教諭が連携してメニューを数点選んでおき，その中から決めていった。メニューを決める時に，全員が自分の名前カードをホワイトボードに貼っていき，数の多いメニューに決めた。学習が盛り上がり，全員が楽しく活動できた。
- ③ 高等部1年生・2年生：健康教室でバランスよく食べることを学習した後，給食の献立を考えた。給食の献立を考える基本は「主食・主菜・副菜・汁物・牛乳」で，主食はご飯とし，牛乳がつき，汁物は栄養教諭が考えることを伝えた。それから，主菜と副菜を決めた。
- ④ 高等部3年生：家庭科「食生活について考えよう」の中で，給食の献立を考える時のポイント等について説明した後，1食分の給食の献立を考えた。主食はご飯とし，牛乳をつけた。生徒が考えるのは，主菜，副菜，汁物である。給食の献立（リクエスト献立）が決まったら，使用する食材を6つの基礎食品群のポスターの食材のカットに磁石を置いていき，バランスの良い献立であることを確認した。

【取組3】(テーマ) リクエスト献立の掲示など

考えた献立はすべて給食で実施した。

リクエスト献立の掲示等の取組は，

- 掲示ポスターを各学年（高等部3年生は各クラス）で作成し，食堂前に掲示した。
- リクエスト献立実施日には，該当学年・クラスが放送を行った。
- 実施後の児童生徒の感想を，掲示ポスター周辺に貼った。
- 高等部3年生に，自分たちが考えた献立を冊子にして配付した。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

各クラスに「ひろしま給食100万食プロジェクト」のシール貼付用台紙を配付し、児童生徒が食べたり作ったりした食数をシールで貼りやすくした。「ひろしま給食100万食プロジェクト」のポスターは、食堂前に掲示した。

今年度も引き続き、県内の特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員全員で、県内産の食材を使用し、児童生徒が食べやすい献立を考え、ひろしま給食実施日に提供した。

また、保護者を対象に給食試食会を行い、「ひろしま給食100万食」を給食試食会に取り入れ、「ひろしま給食100万食」の取組について説明した。

5 取組に対する成果と課題

【成果】 アンケートの意見や感想も参考にしまとめると次のような成果があった。

取組1

- 自分でメニューを1枚ずつ選んで献立を完成させる活動は、非常に興味をもって行った。
- 給食の食材カードを3色分けする場面も、全員が楽しく学習できる。
- 実物のジュースなどを使用した学習では、授業後「ジュースの砂糖が多いので、何日かに分けて飲むようにする。」等の感想があった。

取組2

- 食べたいものを自分たちで選ぶことができるので、いつもは食べる量が少ない児童生徒が完食したという声があった。リクエスト献立の日は、特に給食を楽しみにしている姿が多く見られた。リクエスト献立の日は、特別感をもって、食べる意欲が増していた。主菜を選んだことによって、副菜の喫食量も増えたという意見があった。
- 高等部3年生では、献立に使用する食材に季節の食材を取り入れ、楽しく、積極的に考えることができた。
- リクエスト献立給食実施後のアンケートでは、「児童生徒は楽しく取り組んだか」楽しんだ82%、普通18%、あまり楽しまなかった(嫌がった)0%、「喫食量は他の日と比べてどうだったか」よく食べた82%、普通18%、あまり食べなかった0%の結果だった。楽しく活動し、よく食べていると伺えた。

取組3

- リクエスト献立の放送で、放送した児童生徒は、放送したことで達成感を得ることができた。放送を興味深く聞く児童生徒も多かった。
- 掲示ポスターは、該当クラス・学年の特徴や楽しい雰囲気が分かり良かった。また、掲示ポスターの前を通るたびに、思いだし、興味をもつ児童生徒もいた。

【課題】

リクエスト献立を考えた日から実際に献立が実施されるまで、どうしても時間が経つ。昨年度も同じ意見

があり、今年度は掲示ポスターの作成・展示を早めたがあまり効果はなかった。

6 今後の取組に向けた改善方策について

献立作成のことがあり、どうしても献立を考えた日から実施される日まで時間が経つ。これ以上早めることはできないので、アンケートの意見にもあったが、来年度は、リクエスト献立の日だけの特別感を持てるように取り組みたい。